

(業務方法書様式第7号)(実施要領参考様式第14号関連)

(参考様式: 中間報告(参加農業者→取組実施者))

令和5年度化学肥料低減取組実施報告書(中間報告・完了報告) 【 秋肥 ・ 春肥 】

作付概要

作物名	作付面積(a)
〇〇〇	
〇〇〇	
その他	
計	

中間報告・完了報告のどちらかに「〇」

※ 取組が終わっていない場合は、「中間報告」として提出
この場合、令和6年度は、「完了報告」として提出すること。

※ 既にその取組を終えている場合は、「完了報告」として提出
この場合、令和6年度の提出は不要

秋肥・春肥どちらかに「〇」
※取り組み内容が同じでも、それぞれ提出が必要

1. 実施する(してきた)
2. 実施する(してきた)

取組メニュー	必要な証拠書類	作物名	令和4年度の取組実績(a)	令和5年度の取組(予定・実績)(a) ※予定・実績の何れかに〇	今後の取組(a) ※取組実施済で完了報告とする場合に記載
ア 土壌診断による施肥設計	土壌診断結果及び施肥設計書等				
イ 生育					
ウ 地域					
エ 堆肥					
オ 汚濁					
カ 食品					
キ 有機					

・上記の作付概要に記載した作物名を記入する。
※取組メニューは、2つ以上の実施が必要

・令和4年度に取組が完了している場合は、令和4年度の取組実績欄に実施した面積を記入する。

・令和5年度に取組が完了している場合は「実績」にこれから取組む場合は「予定」に「〇」を付け、面積を記入する。

・取組を終えた場合は、「今後の取組」欄に今後の取組の予定面積を数値で必ず記載する。
→【国QAの間4-16】のとおり、2つ以上のメニューに継続して取り組むことが本事業の要件となっている(面積の規模は問わない)。

問4-16 参加農業者が作成する化学肥料低減実施報告書の「今後の取組」欄にはどのような内容を記入する必要がありますか。

(答)

本事業は、交付等要綱第6の(2)に定めるとおり、令和6年度において、「化学肥料の使用量の低減に向けて継続的に取り組むための取組計画を作成させること」を成果目標としているため、参加農業者においては、化学肥料低減実施報告書の「今後の取組」欄に、令和6年度以降も継続するメニューに「〇」を付けて提出していただく必要があります。

その際、「令和4年度又は令和5年度の取組」欄には既に2つ以上の「〇」が付されているため、「今後の取組」欄においても少なくとも2つ以上の「〇」を付していただくことが必要です。

その上で、可能な範囲で、新しい取組又は従来の取組の強化・拡大(「◎」で記入)が含まれるよう、化学肥料の低減に一層積極的に取り組んでいただきたいと思います。

ソ 地域特認技術(ア)露地野菜栽培における土壌被覆資材を栽培管理(溶脱)					
ソ 地域特認技術(イ)肥効調節剤の活用					
化学肥料(被覆)					
総取組面積			〇〇a	〇〇a	〇〇a

取組実施者にとっては、「総取組面積」の大きい年度の数値を取組実施状況報告書(業務方法書第6-1号)に添付する「参加農業者名簿(業務方法書様式第6-2号)」の「取組面積(ha)」に記入する。

【注意】
本書の「総取組面積」の単位は「a」となっているが、様式第6-2号の「取組面積(ha)」は「ha」であるので注意すること。